

令和 6 年 4 月 2 日現在

機関番号：32663
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：21K12488
研究課題名（和文）持続可能な観光地形成に向けた複雑系モデルとそれを用いた合意形成ツールの開発

研究課題名（英文）Development of a consensus building tool by the complex model for sustainable destination management

研究代表者
古屋 秀樹（Furuya, Hideki）
東洋大学・国際観光学部・教授

研究者番号：80252013
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：「持続可能な観光地づくりのため、いくつかの政策代替案の効果をシミュレーションで推定しながら、それに基づいた意思決定、地域経営を行う方法」を戦略的観光地マネジメント（Strategic Destination Management：SDM）と定めた。さらに、EBPM（証拠に基づく政策立案）とSDMの考えに基づき、ロジックツリーを活用した観光施策による定量的影響を導出する手法を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年SDGsへの取り組みが世界的に注目されているものの、十分な裏付けをとまなわない「グリーンウォッシュ」とみなされるものもある。本研究では「証拠に基づく政策立案と戦略的観光マネジメント」の考えに基づき、ロジックツリーを活用した観光施策による影響の整理を行った。さらに、施策と対応する各項目を数値化することで重回帰分析を行い、項目個別の影響に加え、複数の施策の組み合わせやその水準の差異を考慮しながら総合評価への影響、ならびに感度分析が可能な仕組みを構築した。これらの活用によって、施策の検討段階でその影響を予測できること、効果的な施策選定、ステークホルダーの合意形成、担当者の効力感醸成が期待される。

研究成果の概要（英文）：We defined Strategic Destination Management (SDM) as "a method of decision-making and regional management based on simulations to estimate the effects of several policy alternatives in order to create a sustainable tourist destination. Furthermore, based on the ideas of EBPM (evidence-based policy making) and SDM, we developed a method to derive the quantitative impact of tourism policies utilizing a logic tree.

研究分野：観光地域計画

キーワード：持続可能な観光 戦略的観光地マネジメント ロジックモデル

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「持続可能な観光地づくり」や **SDGs** を実際に、効果的に実現するためにはどうしたら良いのであろうか？ **SDGs** の理念に依拠した活動を行いながら、ある時点でモニタリング・評価を行い、次期の取り組みに反映する **PDCA** サイクルの実装が考えられる。それに資することができる「日本版持続可能な観光ガイドライン（観光庁）」等が様々な主体から提案され、それに基づくモニタリングが試みられている。それによって、地域の現状を適切にモニタリングできる一方、あるべき「地域の将来像」達成のために、どのような施策を行えばよいのか、との問いに適切な解を提示することが困難と考えられる。また、**PDCA** に則ると、現象・結果を踏まえて対策を講じるために時間がかかるとともに、多様な主体がかかわる観光地では、主体間の合意形成が効果的に行われない恐れやそもそも施策による因果関係が明瞭でないことも問題点として存在する。そのため、**SDGs** や魅力ある「地域の将来像」達成のために、適切な計画情報の提供を行い、効果的な合意形成のためのサポートが必要となる。

2. 研究の目的

「持続可能な観光地づくり」を効果的に進めるためには、下記のような要件を具備することが望ましいと考えられる。

- 1) 将来予測ができること（主体の取り組みによる影響が予測できること）
- 2) 地域を総合的にとらえられること（主体間の取り組みや観光地に関連する要素（社会、経済、環境、観光等）間の関連性を明示できること）
- 3) 合意形成支援ができること（持続可能な観光地づくりのための意思決定支援と、そのための場の形成に寄与できること）

この 1)~3) を満たした「持続可能な観光地形成に向けた複雑系モデルとそれを用いた合意形成ツールの開発」を行うことを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

「持続可能な観光」の実現のための支援ツールとして、「持続可能な観光地づくりのため、いくつかの政策代替案の効果をシミュレーションで推定しながら、それに基づいた意思決定、地域経営を行う方法」を戦略的観光地マネジメント（**Strategic Destination Management : SDM**）と定めた。さらに、**EBPM**（証拠に基づく政策立案）と **SDM** の考えに基づき、ロジックツリーを活用した観光施策による定量的影響の整理を進める。

SDM 構築のためには、持続可能な観光地形成と関わりのある視点（社会、経済、マネジメントなど）・要因相互の関連性を定量的に明示することが重要とされる。そこで、鎌倉市を対象に「鎌倉市の観光事情」と「**KDDI Location Analyzer**」を使用して、作成したロジックツリーの各項目の定義づけと **2020** 年第 2 四半期から四半期ごとの定量的に把握する。さらに、項目間の関連性を重回帰分析で把握するとともに、ロジックツリーで連鎖的に表現される総合評価への影響、ならびに感度分析から施策と関連が及ぼす影響度合いを算出する。

4. 研究成果

上述、では既存研究をもとに、複雑な事象を表現しやすいというロジックツリーの作成を行った。項目同士の関係性を定量的に把握するため、全ての項目に確からしい繋がりがあるか、また全項目データを取る事が可能であるかに注意しながら作成した（図 1）。

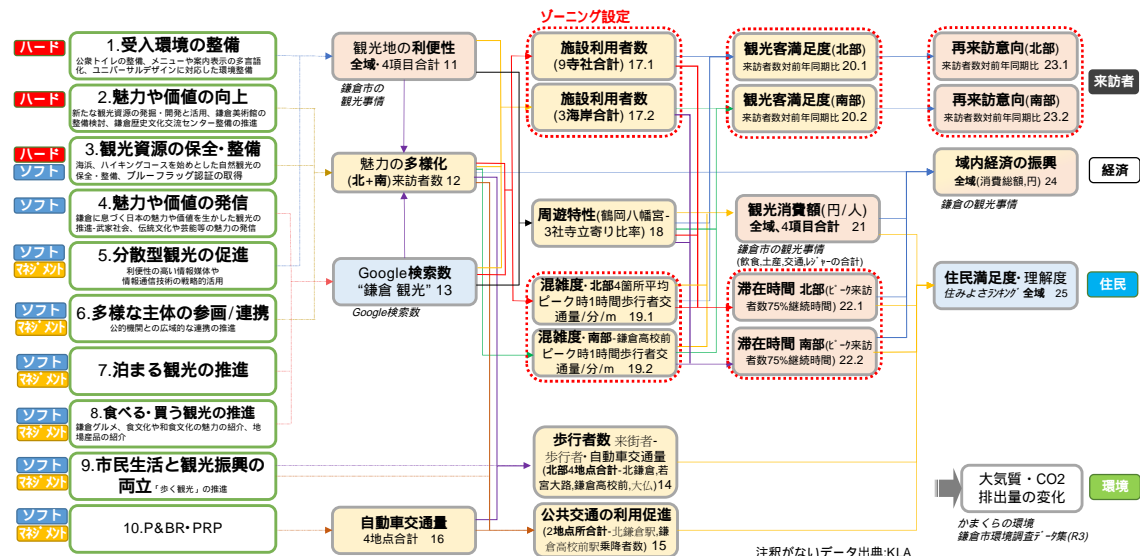


図 1 鎌倉市を対象としたロジックフロー

次に、図1において四角で示された項目間の関連性を重回帰モデルによって把握した。いずれのモデルとも、決定係数が**0.9**を上回り一定程度の説明力を有しているものと判断できた。全体としてロジックツリーの妥当性を示すことができた一方で、現在の政策では北部の混雑度によって観光客満足度と滞在時間に負の影響が生じるため、その解決に資する施策が必要と考察された。

最後に であるが、図2は利便性、集客増、プロモーション、自動車抑制各々の効果が現状比**10%改善されたもの**と仮定した場合、他の要因に与える影響を感度分析した結果である。

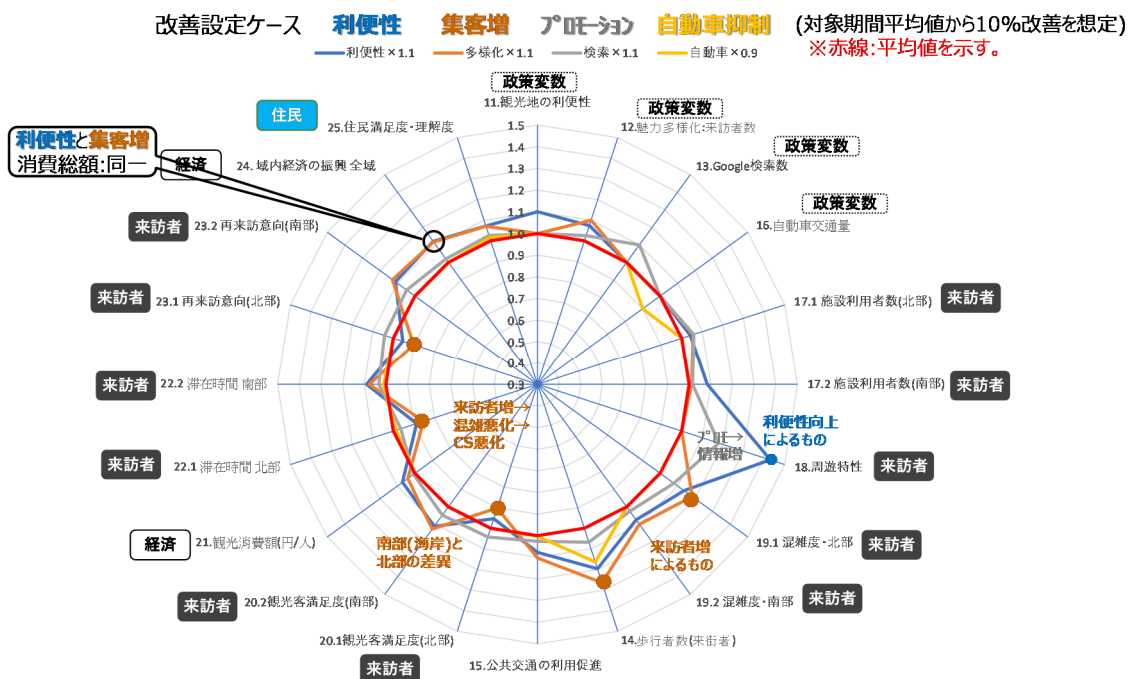


図2 感度分析の結果

利便性向上によって、周遊増加による施設利用者増が見られる一方、集客増による混雑や満足度で悪影響が生じていることを定量的に把握できた。また、プロモーションの改善では、良質なコンテンツ造成によって良好な効果発現を確認できる一方、自動車抑制では効果が限定的であることが明らかになった。

これらの活用によって、施策の検討段階でその影響を予測できること、効果的な施策選定、ステークホルダーの合意形成、担当者の効力感醸成が期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 古屋秀樹, 金城香凜, 近藤千恵子, 安本達式	4. 巻 65
2. 論文標題 戦略的観光地域マネジメントのための定量的ロジックモデル作成方法の一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 NO.14-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古屋 秀樹, 安本 達式, 近藤 千恵子	4. 巻 33巻2号
2. 論文標題 持続可能な観光にむけた戦略的観光地マネジメントに関する基礎的研究 - 鎌倉市を事例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 1,14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 FURUYA Hideki, KINJO Karin, KONDO Chieko, YASUMOTO Tatsunor	4. 巻 78
2. 論文標題 ANALYSIS OF METHODS FOR BUILDING QUANTITATIVE LOGIC MODEL FOR STRATEGIC TOURISM DESTINATION MANAGEMENT	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management)	6. 最初と最後の頁 I_205 ~ I_215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.78.5_I_205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡本 直久 (Okamoto Naohisa) (70242295)	筑波大学・システム情報系・教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野瀬 元子 (Nose Motoko) (60611845)	大東文化大学・文学部・教授 (32636)	
研究分担者	崔 瑛 (Choi Young) (60635770)	神奈川大学・国際日本学部・准教授 (32702)	
研究分担者	栗原 剛 (Kurihara Takeshi) (80610344)	東洋大学・国際観光学部・教授 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関